



## 国立競技場とりこわし工事 完了報告 ①

新国立競技場の整備事業について

和歌山で秩父宮記念スポーツ博物館巡回展を開催 ②

FIVBワールドカップバレーボール2015男女大会開催 ③

太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ2015東京大会開催

スポーツ施設管理運営に関する調査報告レポート／第5回（最終回）

# 新国立競技場の整備事業について

新国立競技場の整備については、2015年7月17日(金)、安倍総理大臣から、これまでの計画を白紙に戻しゼロベースで見直すとの指示がありました。

その後、「新国立競技場整備計画再検討のための関係閣僚会議」が設置され、8月14日(金)に「再検討に当たっての基本的考え方」が示されました。さらに、8月28日(金)には、「新国立競技場の整備計画」が決定されました。

この計画は、国民・アスリートの声や与党からの提言などを踏まえまとめられたもので、その基

本理念は「(1) アスリート第一、(2) 世界最高のユニバーサルデザイン、(3) 周辺環境等との調和や日本らしさ」となっています。

この計画に基づき、事業主体であるJSCは、9月1日(火)から「新国立競技場整備事業」に関する公募を開始しています。

今回の公募は、設計、工事施工(工事監理を含む)を一貫して発注する公募型プロポーザル方式(設計交渉・施工タイプ)としており、今後、以下のスケジュールを予定しています。

## 今後のスケジュール

～2015年11月16日	○ 技術提案書の提出
同年11月下旬～	○ 技術提案書の審査
同年12月末	○ 設計・工事施工等・工事監理を行う事業者(優先交渉権者)の選定
2016年1月目途	○ 設計委託契約 ～ 基本設計、実施設計 ～
同年12月目途	○ 工事請負契約 ～ 工事施工 ～
2020年4月末	○ 工事竣工の期限(工期短縮の目標は同年1月末を期限)

JSCは、「新国立競技場の整備計画」に従い、新国立競技場整備事業を推進してまいりますので、引き続きのご支援を賜りますようお願いいたします。

## 国立競技場 とりこわし工事

### 完了報告

国立競技場とりこわし工事は、2015年3月から本体の躯体解体を開始し、10月下旬をもちまして、無事に完了しました。

新国立競技場建設工事開始までは、近隣の方々にご心配・ご迷惑をお掛けすることのないよう、とりこわし後の敷地には、環境対応型粉塵防止剤等を全体に撒き、飛砂・発塵の防止、抑制を図っています。また、敷地は釜型に掘削し、大雨の場合にも敷地内に雨水を溜め込み、周辺への漏水がないように対応することとしています。

JSCとしては、引き続き、防犯・安全管理に努めてまいりますので、何卒変わらぬご理解とご協力を賜りますようお願いいたします。



# 和歌山で 秩父宮記念スポーツ博物館巡回展

## を開催しました

秩父宮記念スポーツ博物館・図書館



秩父宮記念スポーツ博物館巡回展会場

秩父宮記念スポーツ博物館は、今年度、文化庁の補助事業「平成27年度地域の核となる美術館・歴史博物館支援事業」に採択され、スポーツミュージアム連携・啓発事業を行っています。

本事業は「地域と連携した日本のオリンピックの歴史を伝える巡回展」、「国内外のスポーツミュージアム情報収集」、「オリンピック資料を後世に伝える人材育成」という3つの事業から成ります。今号では9月5日(土)～10月27日(火)まで和歌山で開催された巡回展事業について報告いたします。

「秩父宮記念スポーツ博物館巡回展：2020年東京オリンピック・パラリンピックがやってくる」と題した当館の巡回展は、和歌山県和歌山市の商業施設「フォルテワジマ」で行われました。同じフロアでは、紀の国わかやま国体・紀の国わかやま大会の文化プログラム事業「わかやまスポーツミュージアム」、わかやまスポーツ伝承館常設展、全国スポーツ写真展が同時開催され、同じフロアで日本のスポーツに関する4つの展示を見ることができました。

巡回展では当館所蔵の1964年第18回東京大会資料を中心に、日本が初めて参加した1912年第5回ストックホルム大会から、2020年東京オリンピック・パラリンピック競技大会へと続くオリンピック・パラリンピックの歴史を紹介する展示を行いました。

連日、多くのお客様で賑わいましたが、本物のオ

リンピックメダルを首にかけ、表彰台(レプリカ)にのぼって記念撮影を行う「メダリスト体験」(土日祝日の限定イベント)が、和歌山会場限定ということもあり、特に人気になっていました。

今後は、来年の1月23日(土)～3月13日(日)まで宮城県の東北歴史博物館で巡回展を開催する予定となっていますので、お近くの方はぜひご来場ください。



展示：1912年第5回ストックホルム大会



展示：1964年第18回東京大会(左・ポスター、右・着物)



展示：1972年第11回札幌冬季大会



展示：パラリンピアン(義足)



「メダリスト体験」コーナー



展示：1998年第18回長野冬季大会

# FIVB ワールドカップ バレーボール 2015 男女大会 開催

公益財団法人日本バレーボール協会

バレーボールのビッグイベントのひとつ「FIVBワールドカップバレーボール2015男女大会」が、8月22日に開幕しました。開幕の場となった国立代々木競技場第一体育館は、ワールドカップや数々のバレーボールの大会で名勝負が繰り広げられた舞台として、バレーボールの「聖地」と呼ばれています。ワールドカップは、国際バレーボール連盟が主催するオリンピック、世界選手権と並ぶ公式大会として4年に一度開催され、1977年から男女大会とも日本で開催しています。これまでバレーボールのイベントは「秋」というイメージがありましたが、今



▲優勝した女子中国チーム

▼全日本女子チーム



▲優勝した男子アメリカチーム

▼古賀紗理那選手(右)

▼石川祐希選手(手前)  
山内晶大選手(奥)

大会より「秋」から「夏」へ開催時期が変更になり、文字通り熱い戦いが繰り広げられました。

さらに、1991年からは、オリンピックの出場資格が与えられる大会としてグレードアップされており、来年のリオデジャネイロオリンピックの出場権が与えられる最初の予選を兼ねた大会として、参加チームによる熾烈な出場権争いが繰り広げられ、見応えのある戦いが最後まで続きました。



大会は、男女大会ともに最終日まで順位がもつれました。

女子大会は、中国(金メダル)、セルビア(銀メダル)、アメリカ(銅メダル)が入賞を果たし、全日本女子チームは、入賞したセルビアと4位のロシアにフルセットで落とした黒星が影響し、惜しくも7勝4敗の5位となりました。男子大会は、アメリカ(金メダル)、イタリア(銀メダル)、ポーランド(銅メダル)が入賞を果たしました。上位3チームは10勝1敗で並び、アメリカは、昨年の世界選手権優勝のポーランドに敗れはしたものの、勝ち点でイタリア、ポーランドを上回り、金メダルを獲得しました。同じく10勝1敗のイタリアは、大会最終日にそれまで全勝だったポーランドを下してセット率で上回り、銀メダルを獲得しました。

全日本男子チームは、参加12チーム中10チームが世界ランキングで日本より上位という厳しい戦いで5勝6敗の6位ではありましたが、世界のトップチームと互角に戦えるまでに成長し、大きな収穫を得ることができました。

また、リオデジャネイロオリンピックの出場権は、女子大会で中国とセルビアが、男子大会でアメリカとイタリアが獲得し、1カ月にわたる大会を終えました。



今大会は、全日本男女チームともに2020年東京オリンピックを見据え、積極的に若手選手の起用を行い、新しいスターも誕生しました。

全日本女子チームでは、絶対的なエースの木村沙織選手を追い越す勢いで、古賀紗理那選手が大活躍したのは記憶に新しいことと思います。

さらに、男子チームではキャプテンを務めた清水邦広選手に加え、南部監督自ら命名した“NEXT 4”柳田将洋選手、山内晶大選手、高橋健太郎選手、

▼清水邦広選手(左)

▼柳田将洋選手

石川祐希選手の4選手が期待通りの活躍をしたことは、全日本男子チームにとっても、日本のバレーボール界にとっても明るい兆しが見えました。

大会は試合を重ねるごとに盛り上がりが増し、女子大会から男子大会の最終日まで会場に足を運んでいただいたお客様

▼高橋健太郎選手(右)



で連日の超満員となり、日本全国のバレーボールファンと感動を共有できたと確信しています。しかしながら、全日本男女バレーボールチームの挑戦はスタートしたばかりです。2016年リオデジャネイロオリンピック、2020年東京オリンピックとつなげていくためにも、皆様のご声援を「力」に、一番輝くメダルを目指し挑戦していきます。



# 太陽生命 ウィメンズセブンズ シリーズ2015

## 東京大会が開催されました！

秩父宮ラグビー場にて6月20日（土）、21日（日）女子7人制ラグビーの日本一を決める「太陽生命ウィメンズセブンズシリーズ2015」東京大会が開催されました。

ウィメンズセブンズシリーズ2015とは、全4大会（保土ヶ谷大会、東京大会、秋田大会、横浜大会）の勝敗によって年間チャンピオンを決める大会です。秩父宮ラグビー場としては初の女子大会となりました。

### 普及・強化に向けた新しい大会

この大会は、7人制ラグビーがリオデジャネイロオリンピック大会の正式競技に採用されたことにより、女子7人制ラグビーの強化及びオリンピック出場に向けて2014年に創られた新しい大会です。オリンピックの正式競技決定に伴い、女子のラグビーチームが次々と設立されるなど、女子ラグビーも白熱しており、今後ますます注目が高まる競技です。

7人制ラグビーの女子日本代表は、「サクラセブンズ」という愛称で親しまれています。

### 7人制ラグビー誕生から リオデジャネイロオリンピックの 正式競技採用まで

7人制ラグビーの歴史は、1883年スコットランドのボーダー地方の町、メルローズとガラシールズの地域メンバーの対立から始まります。大会を計画したメルローズ側のラグビークラブは資金不足などから15人制ではチームが集まらず、考え出された

のが7人で行うラグビーでした。これを機に7人制ラグビーは新たなラグビーとして次々と世界に広まっていきます。

ラグビー強豪国だけでなく、様々なラグビー発展途上国への地道な普及活動が続けられ、試合時間の短さがオリンピックの運営に合致したこともあり、2016年リオデジャネイロオリンピックの正式競技として採用されることが決まりました。2020年東京オリンピックでも開催が決定しており、日本チームのますますの活躍が期待されます。

オリンピックでも見たい風景



### 選手だけじゃない、 女性レフリーも活躍！



選手だけではなく、レフリーも女性が活躍

本大会では、レフリー11名のうち、女性4名が活躍しました。その中には、ママさんレフリーの姿も見られ、積極的に活動を行っています。ラグビーの場合、レフリーは大会経験と認定試験を重ね、トップレフリーを目指します。そして新たに公益財団法人日本ラグビーフットボール協会では、レフリーの人材発掘、技術や知識の習得を目指し、世界で通用するトップレフリーを育成するため、レフリーアカデミー制度を導入しました。本大会の女子レフリーのうち2名のレフリーがこのアカデミー生であり、国内だけでなく海外の大会でも活躍しています。現在、女子レフリーは全国に約30名ほどいて、それぞれの目標を持って活躍しています。

### Road to Rio !

2016年リオデジャネイロオリンピックの正式競技として採用され、注目を浴びている7人制ラグビーですが、本大会出場をかけたアジア予選が今年の11月に開催されます。11月28日、29日には、秩父宮ラグビー場でアジア予選（女子）が行われます。アジアの出場はたったの1枠。リオの切符を手に入れるため、ぜひ皆さんで応援しましょう！



2016年リオデジャネイロオリンピックを目指して！

#### ■7人制ラグビーアジア予選

- 第1戦 開催日：2015年11月7日（土）、8日（日）  
会場：香港・香港スタジアム  
（※男子・女子共に開催）  
第2戦 開催日：2015年11月28日（土）、29日（日）  
会場：東京・秩父宮ラグビー場  
（※女子のみ開催）

## 第12回 JISSスポーツ科学会議開催のお知らせ

日本スポーツ振興センターが管理・運営する国立スポーツ科学センター（JISS）では、JISSの研究成果を広く公表するとともに、スポーツ医・科学・情報の研究者、コーチ、競技団体関係者が一堂に会し競技力向上のための意見交換を行う場として、JISSスポーツ科学会議を開催しています。



- 【日 時】 平成27年12月10日（木） 9：30～16：30（予定）  
【場 所】 味の素ナショナルトレーニングセンター 研修室  
【場 所】 住所：〒115-0056 東京都北区西が丘3-15-1  
【参 加 費】 無料  
【招待講演】 「ドイツにおける競技者育成システムについて」  
Dr.アンチェ・ホフマン/ドイツIATジュニア競技スポーツ部  
【招待講演】 「オランダにおけるスピードスケートのジュニアサポート」  
【シンポジウム】 「ジュニアアスリートの医・科学サポートを考える」  
「JISSにおける医・科学最新情報：新しい競技力向上支援の可能性」など  
【そ の 他】 プログラムの詳細や申込み方法は、決定次第JISSのウェブサイト上（<http://www.jpnsport.go.jp/jiss/>）に掲載します。

※講演内容及び講演者については都合により変更になる場合があります。

お問い合わせ先 国立スポーツ科学センター スポーツ科学研究部 研究・支援協力課  
電話：03-5963-0202 F A X：03-5963-0232  
Eメール：research-01@jpnsport.go.jp

# スポーツ施設管理運営に関する調査報告レポート

第5回(最終回)

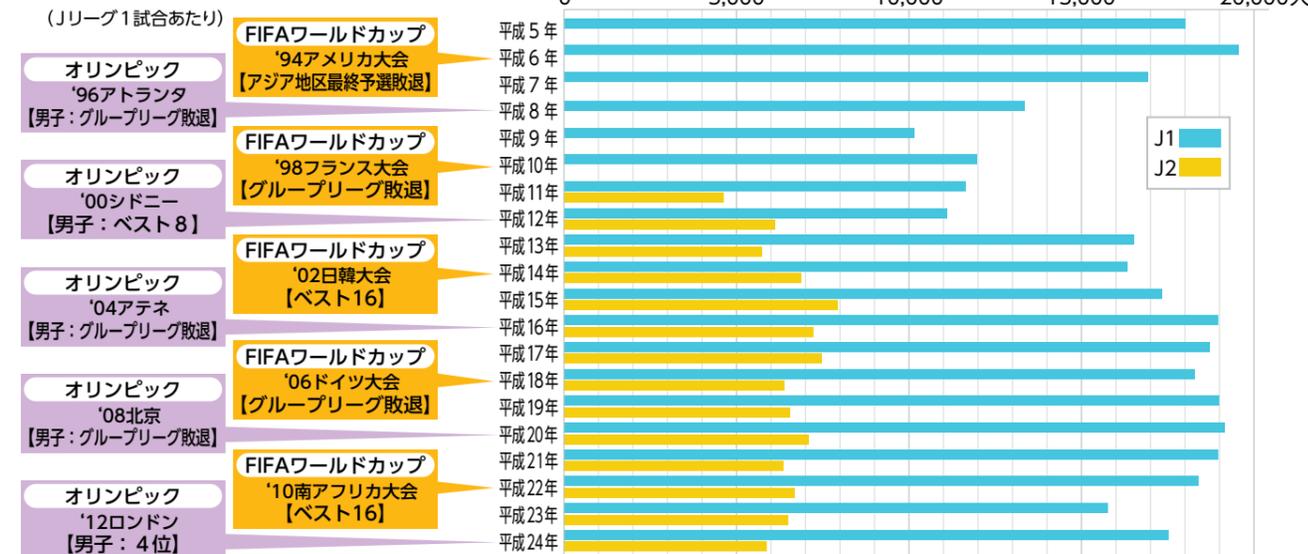
国立競技場事業課

国立競技場では、平成24年を「Jリーグ開幕」から20年、「2002FIFAワールドカップ(日韓共催)」から10年という、日本サッカー界における節目の年と位置付け、2002FIFAワールドカップ開催会場を対象とし、右のテーマに基づく調査研究を行いました。

スタジアムの変遷をたどることで、施設利用者、観客、地域社会等から求められるスポーツ施設のあり方を探り、またその結果を施設関係者・スポーツ関係者に提供することによって、施設改修や大規模スポーツ大会時の参考資料となるようにまとめました。

調査概要	
■テーマ	「Jリーグ開幕」及び「2002FIFAワールドカップ開催」からのスタジアムにおけるソフト面・ハード面の変遷を調査し、10年・20年の記録としてまとめる。
■期間	平成24年11月～平成25年3月
■対象	大分銀行ドーム/ノエビアスタジアム神戸/ヤンマースタジアム長居/エコパスタジアム/デンカビッグスワンスタジアム/日産スタジアム/埼玉スタジアム2002/茨城県立カシマサッカースタジアム/ひとめぼれスタジアム宮城/札幌ドーム ※本調査で記載のスタジアム呼称等に関しては、平成27年6月時点アンケート及びヒアリング
■方法	本誌へ掲載(各回2スタジアム、計5回)
■調査報告	※各報告「3」「4」はそれぞれのスタジアムからの寄稿

## 年間入場者平均の推移



## サッカー界の変遷

まず、スタジアムの変遷をたどる上で重要な背景となる日本サッカー界の歴史について調査しました。右表は、平成元年から24年度までの日本サッカー界の歴史について主な出来事、トピックス等を年表にまとめたものです。また、右上のグラフは、Jリーグ開幕からの年間入場者平均の推移を示したもので、人気の移り変わりを示しています。これらの背景を踏まえた上で、各スタジアムの変遷について調査を行いました。

写真提供：日刊スポーツ新聞社



平成5年5月15日 Jリーグ開幕セレモニー

	主な出来事	トピックス	Jリーグ以外の大規模大会
平成元年度～平成4年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成元年 JFAが「プロリーグ準備検討委員会」設置。3年後にプロリーグ発足を目標とした。2002FIFAワールドカップ開催立候補の意思表示、招致活動開始</li> <li>■平成3年11月 社団法人日本プロサッカーリーグが正式に発足</li> <li>■平成4年5月 Jリーグプレ開幕戦として第1回ヤマザキナビスコカップ開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成元年 Jリーグは、理念・活動方針として【日本サッカーの水準向上及びサッカーの普及促進/豊かなスポーツ文化の振興及び国民の心身の健全な発達への寄与/国際社会における交流及び親善への貢献】を掲げた。</li> <li>■平成4年 天皇杯はJリーグ所属チームおよび9地域代表の全32チームに出場権が与えられた。</li> </ul>	
平成5年度～平成8年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成5年 Jリーグ開幕(5月15日)。プロサッカー初のリーグ戦スタート(10クラブ)</li> <li>■平成5年 FIFAワールドカップアメリカ大会 アジア地区最終予選敗退(ドーハの悲劇)</li> <li>■平成8年 「Jリーグ百年構想」をキーワードとした広報活動開始</li> <li>■平成8年5月 2002FIFAワールドカップ日韓共催決定</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成5年 Jリーグ開幕(5月15日)。国立競技場に59,626人が来場した。この日のチケットは抽選制で、チケットには購入者の名前が刻印され、記念となるように考案された。</li> <li>■公認グッズ店が爆発的人気・チャホーンによる騒音問題が表面化</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成8年 アトランタオリンピック(男子：グループリーグ敗退/女子：グループリーグ敗退)</li> </ul>
平成9年度～平成12年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成10年 FIFAワールドカップフランス大会に日本初出場</li> <li>■平成11年 J1、J2の1・2部制開始</li> <li>■平成12年 FIFAクラブ世界選手権2000(第1回大会)開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成9年 日本初のサッカーナショナルトレーニングセンター「ヴィレージ」が福島にオープン</li> <li>■平成11年10月 横浜マリノスと横浜フリューゲルスが合併。他のクラブでも出資企業が撤退するなど、メディアではクラブの経営危機が喧伝された。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成10年 FIFAワールドカップフランス大会(グループリーグ敗退)</li> <li>■平成12年 シドニーオリンピック(男子：ベスト8)</li> </ul>
平成13年度～平成16年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成13年 toto(スポーツ振興投票)の導入開始</li> <li>■平成14年 FIFAワールドカップを日本と韓国が共同開催</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成13年 選手育成プロジェクトとして「Jリーグアカデミー」、選手のセカンドキャリアの支援として「Jリーグキャリアサポートセンター」を始める。</li> <li>■平成15年 「Jリーグ百年構想」の一環で、芝生をモチーフにした「Mr.ピッチ」によるプロモーションを展開。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成14年 FIFAワールドカップ日韓大会(ベスト16)</li> <li>■平成16年 アテネオリンピック(男子：グループリーグ敗退/女子：ベスト8)</li> </ul>
平成17年度～平成20年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成17年 J1が2ステージ制から1ステージ制へ</li> <li>■平成18年 FIFAワールドカップドイツ大会に日本代表出場</li> <li>■平成19年 FIFAクラブワールドカップで浦和レッズ3位</li> <li>■平成20年 FIFAクラブワールドカップでガンバ大阪3位</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成18年 エリート育成機関「JFAアカデミー福島」開校</li> <li>■平成19年 イレブンミリオンプロジェクト開始。「2010年シーズンに年間1100万人の観衆を集めよう」という目標を掲げ、キャンペーンを展開。※結果、総入場者は864万5762人</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成18年 FIFAワールドカップドイツ大会(グループリーグ敗退)</li> <li>■平成20年 北京オリンピック(男子：グループリーグ敗退/女子：4位)</li> </ul>
平成21年度～平成24年度	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成22年 FIFAワールドカップ南アフリカに日本代表出場</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成21年3月 Jリーグ公式試合通算入場者数が1億人を突破</li> <li>■平成24年                             <ul style="list-style-type: none"> <li>・Jリーグクラブライセンス制度施行</li> <li>・公益社団法人日本プロサッカーリーグに移行</li> <li>・Jリーグ20周年特別企画 開幕戦をネット放送</li> <li>・J1昇格プレーオフ、J2・JFL入替戦制度</li> </ul> </li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■平成22年 FIFAワールドカップ南アフリカ大会(ベスト16)</li> <li>■平成23年 FIFA女子ワールドカップドイツ大会(優勝)</li> <li>■平成24年 ロンドンオリンピック(男子：4位/女子：銀メダル)</li> </ul>

※年表中のチーム名に関しては、当時の名称にて表記しています。



# 調査対象スタジアム

(2002FIFAワールドカップ開催スタジアム)

## 掲載順

- 第1回……大分銀行ドーム  
(Vol.603掲載) ノエビアスタジアム神戸
- 第2回……ヤンマースタジアム長居  
(Vol.604掲載) エコパスタジアム
- 第3回……デンカビッグスワンススタジアム  
(Vol.605掲載) 日産スタジアム
- 第4回……埼玉スタジアム2002  
(Vol.606掲載) 茨城県立カシマサッカースタジアム
- 第5回……ひとめぼれスタジアム宮城  
(今回掲載) 札幌ドーム

### ノエビアスタジアム神戸

- 開 場：平成13年 ●収容人員：30,132名
- 所 有 者：神戸市
- グループL 6/5 ロシア×チュニジア (2-0)
- グループL 6/7 スウェーデン×ナイジェリア (2-1)
- 決勝T 6/17 ブラジル×ベルギー (2-0)

### 大分銀行ドーム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：40,000名
- 所 有 者：大分県
- グループL 6/10 チュニジア×ベルギー (1-1)
- グループL 6/13 メキシコ×イタリア (1-1)
- 決勝T 6/16 スウェーデン×セネガル (1-2)

### デンカビッグスワンススタジアム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：42,300名
- 所 有 者：新潟県
- グループL 6/1 アイルランド×カメルーン (1-1)
- グループL 6/3 クロアチア×メキシコ (0-1)
- 決勝T 6/15 デンマーク×イングランド (0-3)

### ヤンマースタジアム長居

- 開 場：昭和39年 ●収容人員：47,816名
- 所 有 者：大阪市
- グループL 6/12 ナイジェリア×イングランド (0-0)
- グループL 6/14 チュニジア×日本 (0-2)
- 決勝T 6/22 セネガル×トルコ (0-1)

### エコパスタジアム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：50,889名
- 所 有 者：静岡県
- グループL 6/11 カメルーン×ドイツ (0-2)
- グループL 6/14 ベルギー×ロシア (3-2)
- 決勝T 6/21 イングランド×ブラジル (1-2)

### 日産スタジアム

- 開 場：平成10年 ●収容人員：72,327名
- 所 有 者：横浜市
- グループL 6/9 日本×ロシア (1-0)
- グループL 6/11 サウジアラビア×アイルランド (0-3)
- グループL 6/13 エクアドル×クロアチア (1-0)
- 決勝T 6/30 ブラジル×ドイツ (2-0)

### 札幌ドーム

- 開 場：平成13年 ●収容人員：53,738名
- 所 有 者：札幌市
- グループL 6/1 ドイツ×サウジアラビア (8-0)
- グループL 6/3 イタリア×エクアドル (2-0)
- グループL 6/7 アルゼンチン×イングランド (0-1)

### ひとめぼれスタジアム宮城

- 開 場：平成12年 ●収容人員：49,000名
- 所 有 者：宮城県
- グループL 6/9 メキシコ×エクアドル (2-1)
- グループL 6/12 スウェーデン×アルゼンチン (1-1)
- 決勝T 6/18 日本×トルコ (0-1)

### 茨城県立カシマサッカースタジアム

- 開 場：平成5年 ●収容人員：40,728名
- 所 有 者：茨城県
- グループL 6/2 アルゼンチン×ナイジェリア (1-0)
- グループL 6/5 ドイツ×アイルランド (1-1)
- グループL 6/8 イタリア×クロアチア (1-2)

### 埼玉スタジアム2002

- 開 場：平成13年 ●収容人員：63,700名
- 所 有 者：埼玉県
- グループL 6/2 イングランド×スウェーデン (1-1)
- グループL 6/4 日本×ベルギー (2-2)
- グループL 6/6 カメルーン×サウジアラビア (1-0)
- 決勝T 6/26 ブラジル×トルコ (1-0)

今回掲載スタジアム

# ひとめぼれスタジアム宮城 (宮城県総合運動公園 宮城スタジアム)

所有者：宮城県

管理運営者：宮城県スポーツ振興財団・同和興業・セントラルスポーツグループ

所在地：〒981-0122 宮城県宮城郡利府町菅谷字館40-1 ※レポートは平成25年度時点の内容になります。

## ●特徴

ひとめぼれスタジアム宮城は、21世紀に向けた宮城県のスポーツレクリエーションの拠点として整備された宮城県総合運動公園（グランディ・21）の中核施設として、平成13年開催のみやぎ国体のため計画された。その後の2002FIFAワールドカップ（平成14年）を視野に設計が変更され、平成12年3月に建設された。

東北地方最大規模で、全長360mの特徴ある大屋根を擁し、観客席、通路、トイレなど施設全体に各種のバリアフリー対策が施された多目的競技場である。また、全国で初めての直線走路で100m×5レーン確保した室内雨天走路（棒高跳び、走り幅跳び、三段跳びの跳躍練習可能）がある。

## ●競技場概要

開場：平成12年4月 建設費：267億円

概要：第1種公認陸上競技場

スタンド・構造：鉄骨鉄筋コンクリート造・一部鉄筋コンクリート造・鉄骨造、地上6階建て（メインスタンド2層式）  
車椅子席 104席 難聴者対応席 3,500席

収容人員：49,000名（全席固定席で2/3に屋根）

芝生面積：71m×107m（7,597m<sup>2</sup>）

芝生：寒地型西洋芝（ケンタッキーブルーグラス）

付帯設備：大型映像装置1基（高輝度LED/9.6m×19.52m）、バリアフリーサイン、身障者対応エレベーター、貴賓席、特別室、展望室、会議室（磁気ループ対応）等

## ●開催実績

・2002FIFAワールドカップ（平成14年）

グループリーグ：

メキシコVSエクアドル（2-1）

グループリーグ：

スウェーデンVSアルゼンチン（1-1）

決勝トーナメント：

日本VSトルコ（0-1）

・キリンチャレンジカップ

（平成12・17・21・25年）

・Jリーグオールスターサッカー（平成12年）

・第84回日本陸上競技選手権大会

（平成12年）

・第56回国民体育大会秋季大会（平成13年）

・第1回全国障害者スポーツ大会

（平成13年）

・FIFAU-20女子ワールドカップ（平成24年）

## ●コンサート実施回数……4回

（平成25年度まで）

・SMAP（平成14・15年）

・EXILE（平成22年）

・サザンオールスターズ（平成25年）



やノンスリップが設置され、下るときの恐怖心を和らげるためつづら折になっている。また、各ゲートへは緊急車両などを乗り入れることが可能で、ゲートから車椅子席へはバリアフリーとなっている。

スタンドの一部には障害者観客席エリアが設置され、104席の車椅子席を確保。手摺の高さ形状は視野を妨げないように工夫されている。

場内に設置されているピクトサインは、認識度を上げるため一般がグリーン、障害者関係がブルーで統一され、表示位置は、対象者の目の高さや見る距離を考慮して上下2段にした。コンコースは、障害者や高齢者のための優先路としてブルーのレーンを設置し、モラルの向上や譲り合いの気持ちを促し、障害者だけではなく介助者等が案内や誘導をしやすいようレーン上にサインを表示した。その他、手摺やスロープ、身障者対応エレベーター、点字表示、多目的トイレ、大型トイレブース、注意喚起床材等を設置し、更衣室や隣接シャワー室についても車椅子使用者が使いやすいよう設定され、すべての人々が使用可能となっている。

メインスタンド及びバックスタンドには、難聴者に対する補聴サポートのため磁気ループが敷設され、約3,500席をカバーしている。

## 【主なバリアフリー対策】

- 身障者対応型エレベーター（2基）
- 車椅子対応観客席（104席）
- 難聴者対応観客席（集団補聴設備：3,500席）
- 手摺付トイレ（大：60ブース/小：34箇所）
- 身障者用駐車場、車椅子対応スロープ
- 視覚障害者誘導点字ブロック及び点字表示

## 【2002FIFAワールドカップ対応改修】

平成13年国体が終了した11月から3月にかけて、ワールドカップ開催のため改修工事が実施された。

- フィールド改修：国内サイズから国際サイズへ（110m×73m）
- プレス席：実況放送席/80席、記者席/400席
- 仮設電源設備：2箇所増設
- 仮設通信回線：1500回線、通信回線の二重化

ワールドカップに関しては、平成3年6月に2002FIFAワールドカップ招致委員会が設立され、11月には社団法人日本プロサッカーリーグが設立されるなど、社会的にサッカーに対する関心が高まる状況の中、平成4年7月宮城県議会においてワールドカップ国内開催候補地への立候補が決議され、翌平成5年1月ワールドカップ国内開催地の最初の候補地15自治体（宮城含む）が選定された。

平成5年5月には、日本プロサッカーリーグ「Jリーグ」が10チームでスタート。どの会場においても想像を超える観客動員を記録するなど爆発的な人気を博していた。同年7月、宮城県、仙台市、宮城県サッカー協会その他関係団体で構成される宮城・仙台招致委員会を設置、ワールドカップ招致に向けて本格的に始動。

平成8年5月に開かれたFIFA理事会において、2002FIFAワールドカップの日本・韓国による共同開催が決定される。アジア初、また大会史上初の共同開催となった。

日韓共同開催決定から、国内開催地の調整が行われ平成8年12月、国内開催候補地から宮城を含む10自治体が決定された。そして、平成9年12月2002FIFAワールドカップ日本組織委員会（JAWOC）が設立された。

平成11年1月日本組織委員会は、全国の自治体に対しトレーニングキャンプ地の募集を実施、すると84か所もの自治体から応募が殺到、平成12年11月の理事会で全てキャンプ候補地として承認された。各候補地のホットな誘致合戦の結果、参加32チーム中24チームが28の自治体所有施設で準備キャンプ及びチーム本部を設置することを決定。宮城県では、イタリアチームが仙台をキャンプ地としたことから、市民やサポーターとの交流の様子が大きく報道されるなど盛り上がりを見せた。

そして、平成14年5月31日に2002FIFAワールドカップが開幕し、宮城スタジアムでは、1次グループリーグ2試合とラウンド16（決勝トーナメント1回戦）1試合が行われた。

## 【ユニバーサルデザインとバリアフリー】

これまでに開催された国民体育大会名称は、地域の名前や特色を冠した“おらが国”国体が大半を占めていた。そこで宮城県は、新世紀最初の国体ということから地方の特色ではなく世界共通の理念である「バリアフリー」をテーマに掲げ、今国体が社会において、障害者に対するバリアフリー推進へのきっかけ作りとなる先進的な取組みが始まった。

スタジアムは、左右非対称構造でスタンドやコンコース、周辺部において位置確認が容易にできる設計となっている。また、観客導線である大斜路のサブスロープは、途中で平場

## 2 2002FIFAワールドカップ開催後から現在に至るまでの施設の変化

### 【施設の原状回復】

2002FIFAワールドカップ終了後、ワールドカップ仕様に変更された施設について当初の仕様に戻す工事が行われた。

変更された施設について当初の仕様に戻す工事が行われた。

- フィールド規格は、当初計画の国内仕様に戻す改修が行

## 1 建設から現在に至るまでの歴史

### ～国民体育大会、そして2002FIFAワールドカップに向けて～

昭和62年12月の宮城県議会において、平成13年開催の「第56回国民体育大会」の誘致が全会一致で決議され、平成元年8月国民体育大会誘致要請書を文部省及び日本体育協会に提出し誘致に向け動き始めた。21世紀最初の国民体育大会とこれまで別々に開催されてきた身体障害者と知的障害者のスポーツ大会を統合した「第1回全国障害者スポーツ大会」が開催されることから、これまでにない画期的な特徴のある「バリアフリー国体」と位置づけられ、新競技場建設計画が企画された。

平成8年7月国民体育大会開催の内定を受けて、10月に新競技場「宮城スタジアム」を中心とする宮城県総合運動公園（グランディ・21）の建設工事が着工された。

宮城スタジアムは、みやぎ国体の主競技場として計画され「バリアフリー」をテーマに、「開かれた競技場」を設計コン

セプトに当初は収容30,000名規模でメインスタンドのみに屋根が設置される計画が進められた。だが、後の2002FIFAワールドカップでの使用を視野に、収容50,000名規模とし観客席の2/3に屋根を架設するためバックスタンドにも屋根を設置する設計に変更されて、平成12年3月に約3年を要した建設工事が完成した。

供用開始から、6月・8月にはキリンカップサッカー・Jリーグオールスターサッカーが行われ、また、10月には日本陸上競技選手権大会が開催されるなど、大規模大会における運用計画の問題点や課題等の洗い出し・見直しが行われた。

平成13年10月第56回国民体育大会「新世紀・みやぎ国体」（秋季）及びこれまで別々に開催されてきた全国身体障害者スポーツ大会と全国知的障害者スポーツ大会が統合された第1回全国障害者スポーツ大会が開催された。



われた(105m×68m)。その後サッカー関係者からの強い要望により平成16年に国際仕様に変更する(107m×71m)

- プレス関係席を原状回復し観客導線拡張に伴い座席整理を実施(収容人員49,000人)
- 会議室にワールドカップ展示室設置

#### [施設ボランティア]

平成14年8月に、ワールドカップ終了後の宮城県総合運動公園(グランディ・21)の利活用推進を図るため、宮城県教育委員会の下に「グランディ21利活用を促すため、考え・行動・実践するグループ」が設置され、その後全国初の官設民営型の施設型ボランティアが誕生した。組織は自主運営で施設側が活動支援する形をとっている。

具体的な活動例:サッカー日本代表戦やJリーグ・コンサートなどの大規模イベント時の来場者の誘導、ゴミの分別、アクセス会議への参加(宮城スタジアム以外の総合体育館イベント時にも活動を行っている)、陸上競技大会開催時の大型映像操作・来場者誘導、施設の主催イベント時の運営協力。

#### [アクセス改善]

宮城スタジアムの大きな課題のひとつにアクセスの改善が挙げられる。平成13年に供用を開始してから行われた多くの行事よりノウハウを蓄積し、主催者を始め関係各団体等と協力して行事の規模に合わせた対応策が検討実行され、現状で可能な対応マニュアルが作られてきた。

- アクセス会議:行事の規模に合わせ、関係各団体との協力体制を構築するためアクセス会議を開催
- 渋滞緩和対策:パーク&バスライド及びシャトルバスの有効活用、駐車場使用台数制限(2,000台目安)により、車両台数を少なくし渋滞緩和を図っている。また、周辺の違法駐車や送迎車の重点取締り及び信号調整を合わせて実施
- アクセス道:平成22年3月、仙台北部道路の残り利府しらかし台IC~富谷JCT間の工事が完了し、仙台北部道路が全面開通した。この開通により三陸縦貫自動車道と東北縦貫自動車道が接続され、仙台都市圏における全周約60kmの自動車専用道路による環状ネットワークが形成される

#### [表示関係]

施設内のサイン表示は、建設から10年経過し傷みが目立ち始めたことから、全体的な充実を図るため再整備を行う。(平成21年)

- ゲート誘導サイン整備(平成21年)
- 敷地内サイン整備(平成24年)

#### [環境面]

- 健康増進法に基づき、喫煙環境整備として館内を全面禁煙とした(平成15年)

#### [その他]

- 地上放送デジタル化に伴い施設内の機器等について更新(平成23年)

#### [東日本震災被災状況]

平成23年3月11日、岩手沖から茨城沖の広範囲を震源とする東日本大震災が発生。それに伴って発生した津波とその後の余震により、宮城県をはじめ青森・岩手・福島・茨城・栃木・千葉などに破壊的な被害をもたらした。加えて地震と津波により発生した福島第一原子力発電所の事故により放射性物質が飛散し広範囲を汚染。

宮城スタジアムにおいては、放射能による汚染被害はなかったものの、施設については地震により大屋根支柱の損傷や上層スタンド階段部破損、駐車場の亀裂及び液状化など大きなダメージが生じていた。

#### (地震発生後の対応)

地震発生直後は、一般開放の50人弱の利用者を屋外に避難誘導(その後利用者のほとんどが帰宅)、電力は停電により非常発電に切り換わり自家発電機が起動。利用者の避難誘導終了後、全施設の利用を中止して各所の状況確認を行った。

各所の被害状況等の情報収集を行った上で関係機関へ報告し、指示事項の確認を行う。災害対策本部を被害の少なかった合宿所内に設置し、帰宅困難者を合宿所に収容。灯りと電源確保のため投光器、小型発電機、懐中電灯等非常災害時対応備品を用意。また、食堂委託業者と備蓄食料の使用について確認。

休日の職員については、遠方や交通手段のない職員を除き出勤を要請。

#### (情報の収集)

強い余震が断続的に続いている状況で、携帯型ラジオなどを利用して被害の状況や交通情報を中心に収集し、避難者等への情報提供に努めた。

#### (施設の震災対応)

宮城県は、県有の体育館等の施設について震災対応施設としての使用を決め、グランディ・21では次のように使用された。

- 合泊所:地区住民避難所(約200人)及び県外災害ボランティア・スクールカウンセラーの宿泊所として
- 宮城スタジアム:災害物資の保管拠点として
- メインアリーナ:警察本部からの要請により震災で亡くなられた身元の判明しない方の遺体安置所として
- サブアリーナ:身元確認場所として
- 駐車場:国内外の救助隊基地、ヘリポート、自衛隊・ガス復旧部隊のキャンプとして
- その他:がれき置場として

#### (スタジアムの被害と復旧状況)

東日本大震災によるスタジアムの主な被害状況は、メインスタンド大屋根の支柱損傷、2層観客席階段破損、駐車場の亀裂及び液状化による被害が発生。

災害復旧工事については、施設全体が震災対応施設として使用されていることから、震災対応終了後に大屋根支柱補強工事等が開始された。

- メイン側大屋根復旧工事(平成23年7月31日~平成24年7月13日)
- 大屋根以外の復旧工事(平成24年1月31日~平成24年7月13日)

大屋根工事は傾いた屋根を支える仮設柱設置工事完了後、亀裂が入った鉄柱(38箇所中26箇所に亀裂)を新材でカバーし補強する工法で、補強材は工場で作成し取り付け。作業エリアが狭く重機も入らないことから難工事であったとのこと。

トラック内に重機が入ることから、事前にトラック全体のレベルを測定し20cmの砂利を養生シートで包み、その上に鉄板を敷く方法を採用した。工事終了後のレベル測定の結果、特に異状は見られなかった。

- スタンド座席復旧工事(平成24年1月31日~平成24年7月13日)
- スタンド階段復旧工事(平成24年1月31日~平成24年7月13日)



## 3 ソフト面の変化・チームとの関係性

#### [スタジアムコンサート]

- アクセス・騒音問題などの課題解決:町役場への概要説明、近隣町内会への開催案内文書配布、住民説明会実施、音量制限・音出し時間制限を設けた

#### [アクセス会議]

- 大規模イベント前には、警察・消防・JR・タクシー協会・バス会社などを含めたアクセス会議を実施し、また住民に対しても協力いただくため説明会を実施

#### [県・地域との連携]

- スタジアムの稼働率向上・地域対応の観点から、中学・高校生の大会や公共団体の利用に対する利用料の減免を制度化
- 利用制限の緩和と地域との関わりを勘案し、地域のお祭りや運動会の利用を許可
- 仙台スタジアム改修工事のため、ベガルタ仙台ホームゲーム(11試合)が行われる

## 4 今後の展望と課題

### ~宮城スタジアムの未来~

東北最大規模のスタジアムとしての使命を果たすべく、大会主催者や関係機関、地域との協働により「みるスポーツ」の推進(大規模イベントの誘致)、「ささえるスポーツ」の推進(施設ボランティアの底辺拡大)、「する」「みる」「ささえる」スポーツすべてが気軽に行え、誰もが気軽に利用できる環境を整備する。

#### [情報ネットワーク機能の充実(全県)]

宮城県体育施設協会事務局としての活動を活用し、県内スポーツ施設とのネットワーク機能を構築している。各競技団体との連携強化を図る。

#### [具体的な活動内容(ボランティア)]

Jリーグ・サッカー日本代表戦やコンサートなどの大規模イベント時の来場者の誘導、ゴミの分別、アクセス会議への参加、陸上競技大会開催時の大型映像操作・来場者誘導、施設主催イベントの運営協力。

#### [今後の課題]

ボランティア組織のさらなる充実を図り、活動者の底辺拡大(人員確保)を課題としている。

# 札幌ドーム

所有者：札幌市

管理運営者：株式会社札幌ドーム（指定管理者）

所在地：〒062-0045 北海道札幌市豊平区羊ヶ丘1番地 ※レポートは平成25年度時点での内容となります。



事前の協議を重ねることでお互いの要望を可能な限り実現しようと協力している。

## ●特徴

都市の中にありながら北海道らしい自然の広がる札幌の丘陵に誕生した札幌ドームは、日本における唯一の完全屋内天然芝サッカースタジアム。天然芝サッカー場移動方式「ホヴァリングサッカーステージ」を世界で初めて採用した。そのため、サッカー用天然芝グラウンドと野球用人工芝グラウンドの併用が可能となり、サッカーと野球2つのプロスポーツのホームスタジアムとなっている世界で数少ないスタジアムである。

## ●競技場概要

開場：平成13年

建設費：422億円

スタンド・構造：鉄筋コンクリート造・鉄骨造・鉄骨鉄筋コンクリート造、地上4階地下2階

収容人員：53,738名

（野球時：42,270人、サッカー時：41,983人）

芝生面積：113.6m×80m

芝生：ケンタッキーブルーグラス、ペレニアルライグラス

付帯施設：展望台、トレーニングルーム、キッズパーク等

## ●開催実績

・2002FIFAワールドカップ（平成14年）

グループリーグ：6月1日

ドイツVSサウジアラビア(8-0)

グループリーグ：6月3日

イタリアVSエクアドル(2-0)

グループリーグ：6月7日

アルゼンチンVSイングランド(0-1)

・キリンチャレンジカップ（平成20・23・24年）

・アジアカップ2007予選最終節（平成18年）

・プロ野球日本シリーズ（平成18・19・21・24年）

・FISノルディックスキー世界選手権札幌大会（平成19年）

・FIA世界ラリー選手権ラリージャパン（平成20・22年）

・札幌モーターショー（平成23年）

## ●コンサート実施回数……68回（平成24年度まで）

・SMAP、嵐、EXILE、B'z、BON JOVI、EAGLES、THE ROLLING STONES等

## 1 建設からワールドカップ開催までの歴史

～世界初ホヴァリングサッカーステージを採用、2つのプロチームの本拠地利用を可能に～

平成4年に札幌市が2002FIFAワールドカップ大会国内開催候補地として名乗りを挙げ、札幌の寒冷多雪地域であることも考慮し、平成8年1月にサッカーや野球・コンサートなど多目的に利用できるドームスタジアムとすることに正式決定した。敷地は、札幌市豊平区羊ヶ丘の農林水産省北海道農業試験場・甜菜試験農場跡地約30ヘクタールを取得。工事期間は平成10年6月～平成13年5月の約3年を費やし、同年の6月2日に開業した。

札幌ドームの一番の特徴は、「ホヴァリングサッカーステージ」方式が採用されたことである。これは、重量8,300tの天然芝のステージ下部に空気を送り込み、その空気圧でステージを約7.5cm浮上させ、自重を10分の1に軽減し、34個の車輪で移動を可能にしたものである。これにより試合のない時には屋外のオープンアリーナで良好な芝を育成することができ、試合開催時には屋内へ移動させ、いつでも良好なコンディションでサッカーの試合開催が可能となった。ただし、屋内に引き入れたサッカーステージを90度回転させることが必要のため、野球場の形状としては、ファウルグラウンドが他の球場に比べて広いという特徴もある。

ワールドカップ準備期間中においては、気運醸成のためにさまざまな広報PR活動やイベントを行った。国外に向けて

は、雪まつりやウィンタースポーツ等で冬のイメージの強い札幌であることから、ワールドカップが開催される6月の気候の良さを切り口に、夏の札幌と優れた機能を持つ札幌ドームを世界中に知らせるPR活動を行った。商工会等地域組織との連携として、フーリガン対策や交通規制への情報提供はもちろんのこと、アンブッシュ行為に対する知識向上を図ることにより、経済効果の向上を目指した。

こうして迎えた2002FIFAワールドカップ本大会。札幌ドームではファーストラウンドの3試合が開催された。6月1日のドイツvsサウジアラビア戦は、同日に新潟スタジアムで開催されたアイルランドvsカメルーン戦とともに、日本における開幕戦となった。また、3試合すべてがシードチームの試合となり、レベルの高い選手たちの活躍に観客はくぎづけとなった。特に、因縁の対決で優勝候補でもあるアルゼンチンvsイングランド戦には7,000人も警察官が動員され、厳重な警戒が行われたことが、この試合の注目度の高さを示している。会場は異様な熱気に包まれ、サポーターの暴力行為等も心配されたが、トラブルもなくスムーズに運営が行われた。世界中の熱い視線を集めた歴史的な一戦は、イングランドが1-0で勝利を収めた。

平成16年にはプロ野球北海道日本ハムファイターズをフ

ランチャイズチームとして迎え、札幌ドーム開業以来ホームスタジアムとしていたコンサドーレ札幌とともに、世界で初めてサッカーと野球、2つのプロチームの本拠地となった。Jリーグとプロ野球およびそれ以外のイベントのシーズン中の日程調整は難しい課題であることは事実だが、3者で毎年

## 2 ワールドカップ開催後から現在に至るまでの施設の変化

～進化をする札幌ドーム～

札幌ドームは、「お客さまの声をかたちに」として積極的に要望に応じていくことをCSRとして掲げており、新設・改修工事を実施している。また、毎年の収益の一部を来場者サービスの充実や来場促進のための改修などの形で還元している。さらに、将来の大規模な更新工事・保全に備え、内部留保として「施設保全設備更新積立金」を積み立て、これらを活用することで、結果的に札幌市の税負担を減らすという形で市民還元している。

### (1) 観戦・施設設備

#### a スタンド

##### ●観客席手すり

取付工事（平成14年度）→塗装補修（平成17年度）→錆対策・取付工事（平成24年度）

→グラウンドが見やすいスタンドを目指す傾斜が強くなるという問題が発生する。安全を確保するために、手すりを取り付け階段の上り下りをスムーズにした。

##### ●観客席冷暖房器具

旋回式可動席暖房機能追加（平成15年度）

→観客席の下部より冷風・温風を吹き出し、年間を通して快適な観戦環境を提供。旋回式可動席の下にも暖房用設備が追加された。

##### ●スタンド座席

メインスタンド座席改良工事（平成18年度）

→ワールドカップ開催時には1,700席～1,800席あったVIP席を、各席・前後のスペースをさらに広くとり、快適な席として608席に改修。クッション性が高い座席で、肘置き部分からテーブルが引き出せるようになっている。

##### ●カップホルダー

カップホルダー整備（平成23年度）

→ほとんどの位置に設置されていたが、ない部分に設置しスタンドの全ての座席に常備された。カップホルダーはないと不便だが、前席の後面にあると前の人の髪の毛が入ってしまったり、足元に近いと蹴られてしまったりと、導線や周辺環境に大きく影響するため、設置個所に注意を払い取り付けた。

##### ●3階スカイボックスシート

バルコニーシート改修（平成23年度）

→ベンチシート構造となっていたものをボックス仕様へ改良。テーブルを設け、クッションタイプのシートと

した。4名ボックス席と6名ボックス席がそれぞれ8ブースずつ設置され、計80名の方が利用できるようになった。北海道日本ハムファイターズ戦では「ローソンスカイボックスシート」として販売され、名称にローソンの冠が入っているため、独占的にローソンチケットのみで販売をしている。Jリーグ試合時には現在使用していない。

#### b サイン関係

##### ●館内サイン工事

サイン改修（平成13・14・18・19年度）

→「敷地内や館内の案内表示が分かりにくい」というお客様の声をもとに、全面的にリニューアル（平成18年度）。案内看板をより大きく見やすい形に工夫した。なお、外国人観光客向けに一部を英語・韓国語・中国語の表示にした。

トイレサイン男女差し替え対応改修（平成21年度）

→コンサート時や来場者多数の北海道日本ハムファイターズ戦時などの女子トイレ混雑を解消するため、トイレサインを男女差し替え対応できるように改良をし、スムーズな運用ができるようにした。

#### c トイレ

●和式トイレ手すり追加工事（平成13年度）

●トイレのベビーキープ・幼児用便座設置（平成18年度）

●洋式トイレを洗浄便座に交換（平成19年度）

●洋式化（開業時の1階コンコースの洋式トイレの割合は44%）

※平成22年度改修（56%）→平成23年度改修（62%）→平成24年度改修（77%）

※平成26年度中に90%を目標

●トイレ個室コートフック設置（平成24年度）

#### d 新設

●ベビーカー置き場ラック（平成17、23年度）

●授乳室（平成17年度）

●医務室（追加）（平成17年度）

●キッズパーク・ベビーコーナー（平成18年度）

→ドーム屋内3階スペースにある大型複合遊具施設で、2歳以下の子供向けのベビーコーナーも併設。試合観戦時（イベントチケット必要）やイベントが開催されない日も無料で利用できる。

●ファミリーシート（平成18年度）

→キッズパーク・ベビーコーナーと共に併設されたテ



ブル付きのベンチ型観戦シートで、大人2名・子供2～3名程度まで座ることができる。

- プレイヤーズビューシート（平成20年度）
  - ▶ 「選手を間近に観れるフィールドシートがほしい」という要望から、ファイターズ戦をはじめとするプロ野球試合において、選手目線で観戦できる【プレイヤーズビューシート】を新設。場面転換作業における撤去・移動を考慮した構造となっており、サッカー・コンサートの開催に影響が出ないよう作られている。
- サッカー練習場ベンチシェルター（平成20年度）
- コインロッカー（平成24年度）

## (2) エコ・環境

- 分別用ごみ箱コンコース本設置（平成19年度）
- 喫煙室環境整備（平成15年度）

- 給湯設備改修「エコキュート導入」（平成19年度）
- 冷温水ポンプインバータ化「エコノパイロット導入」（平成20年度）
- トイレ節水金物設置（平成23年度）

## (3) 芝

- 「ベストピッチ賞」受賞（平成14年度）
- ホヴァリングサッカーステージ散水設備増設（平成16年度）
- 野球用人工芝の更新（平成16、24年度）
- 芝散水ポンプ修理（平成24年度）

## (4) その他

- オープンアリーナ落雪防止庇設置（平成19年度）
- 地上放送デジタル化テレビ更新（平成21年度）
- 大型映像装置基幹システム更新（平成22年度）

屋外での「テラスイベント」では協賛や運営協力により、試合以外の楽しさを創出している。このほか、試合時の飲食の楽しさを増やすために、毎年コンサドーレ、ファイターズの応援弁当や限定メニューなどを刷新しながら、お客さまに喜んでいただけるよう工夫をこらしている。

さらに、独自のCSR事業として「みらいシート」がある。これは当社で両チームの年間シートを購入して「はじめての札幌ドーム」をコンセプトに、札幌市内の小学校3年生と保護者をコンサドーレ札幌、北海道日本ハムファイターズの全試合に各20組ずつ親子を招待する事業である。ほかにも毎年夏に行う「こども絵画展」では小学生を対象にして「サッカーや野球を観戦した思い出」や「将来自分がプレーする夢」など、札幌ドームを舞台にした絵を募集し、各賞にはコンサドーレ札幌、北海道日本ハムファイターズの試合観戦招待や両チームから特別賞を提供してもらうなど、子供たちに両チームを早くから身近に感じてもらう、長期にわたるファンづくりの機会を作って支援している。

ドームの敷地内外では両チームのエンブレム等を始めとする装飾を施しホームチーム色を演出するほか、平成25年のJリーグ・プロ野球のシーズン前には両チームと当社が協力し、初めての試みとして札幌市交通局が進める「駅の個性化プロジェクト」の一環で、札幌ドームの最寄駅である地下鉄東豊

線福住駅に、選手、エンブレム、チームスローガン、札幌ドームの内外観などの写真装飾を施し、来場されるお客さまにワクワク感を提供するなど様々な取組みを共同して行っている。

また、施設としての札幌ドームは選手に最高のプレー環境を提供するために、サッカーではホヴァリングサッカーステージと練習場の天然芝について、良好な状態を保つよう、きめ細かな管理をしているほか、野球では、選手会からの要望に応え開業以来2度目となる人工芝の更新を平成25年シーズン前に当社の費用負担で実施した。さらに、来場者の観戦環境の整備については前述の「お客さまの声」を活かしながら、来場しやすく、また来場したあとも安全・快適に過ごせるように施設改修や改善に努め、両チームをバックアップしている。

このほかにも、当社では両チームが本拠地になった初年度の平成16年から、そのシーズンに札幌ドームで最も活躍した選手を選ぶ「札幌ドームMVP賞」を創設し、毎シーズン終了後に賞金の贈呈と記念プレートを札幌ドーム内に飾っている。

以上のとおり、当社では施設改修や運営方法の改善を図りながら、市民道民をはじめとするお客さまに対してさまざまな形で利益還元をする一方、イベント主催者とともに「サポーターやファン、地域のみなさま」にイベントにも協力してもらうといった、相互間に良好な関係を築いている。

## 3 ソフト面の变化、地域・チームとの関係性

### ～助け合いの精神～

株式会社札幌ドーム（以下当社）では近年、来場者・利用者との「双方向コミュニケーション」を大切なテーマとしてとらえ、電話、メール、場内のコミュニケーションコーナー（ご意見箱）等を利用して「お客さまの声」を収集している。平成24年度にはウェブを使ったご意見公開型のアンケート「オンラインリサーチ」を実施した。平成25年度は「オンラインリサーチ」第2回目としてさらに一歩進化させ、130名のモニターに計5回のアンケートを行い、前回以上に深い内容の声を集めることができた。

いただいたお客さまの声は、社内及び関連する事業者で共有し、必要性や実現性を考慮しながら優先度を決定して改善に活かしている。

例えば、障害のある方からのご意見で、「車椅子利用者ではないが、障害があるため公共交通機関で行くのがたいへん。車での送迎を認めて欲しい」という声には、駐車場の一部を車椅子専用スペースとは別に乗降用スペースとして確保し、障害者手帳等を持参の方に限り事前予約制（無料）で、送迎車両による敷地内での乗降を可能とした（平成20年度）。また、以前から要望の多かった和式トイレの洋式化は平成22年度から計画的に進め、開業当時44%だった洋式トイレの割合は平成24年度末で77%となり、最終的には90%を目指している（1階来場者エリア）。このほか、平成24年度に新設したコインロッカーやATM、駐輪場の拡大や屋外照明の増強等もお客さまの声から実施に至った事例である。

また、スタジアムグルメについては「もっと売店の数を増やして欲しい」という要望から喫煙室の見直しを行い、平成21年度にサブウェイ、平成24年度には銀だこが開店。さらに平成25年度には既存店舗の業態変更を行い新たな専門店3店舗をオープンした。これ以外にケンタッキーフライドチキンやモスバーガーなどの人気ファストフード店のほか、北海道らしいジンギスカンや海鮮を使ったメニューを取り扱う

店舗が並んでいる。また、「クレジットカードを利用したい」という声にも、館内飲食売店に対応機器を設置し、札幌ドームメンバーズクラブ（札幌ドームの会員組織）カードでの決済ができるようにした。上記のように、お客さまからの意見に対してできる限り細やかに対応している。

主催者との取り組みについては、コンサドーレ札幌戦ではサポーターと共にイベントを作り上げるという精神から、ボランティアスタッフが、マッチデイプログラムなどの配布やチケット・パスチェックなどの入場・場内管理を行っているほか、お客さまの案内・誘導や、当社の環境対策のひとつである来場者によるごみ分別のサポート、終了後のスタンドゴミ拾いなど多くの場所で活躍している。その中でも、毎年3月のシーズン開幕前にはホヴァリングサッカーステージの除雪作業のため、コンサドーレ札幌サポーターがボランティアとして約300名以上集まり、人力で丁寧に芝生の上の最後の雪を取り除く。この作業は積雪地ならではの風物詩となっている。

同様の取り組みは、北海道日本ハムファイターズ戦でも実施されており、ボランティアが正規イベント運営スタッフと協力しながら、それぞれの持ち場で活動し円滑なイベント運営を実現させているところである。

コンサドーレ札幌、北海道日本ハムファイターズの両チームと当社は、「お客さまに楽しんでいただき集客を増やす」という目的は同じであり、それぞれのチームと目的を達成するために協力している。

試合時のイベントや企画チケットなどソフト面では両チームの独自のアイディアであるが、それらを当社の広報誌やウェブサイトのほか、掲出枠を持つ市営地下鉄の額面広告等で告知協力していることに加え、札幌ドームの会員組織（札幌ドームメンバーズクラブ）向けにチケット販売協力も積極的に進めている。また、両チームが年間数回行う札幌ドーム

## 4 今後の展望と課題

### ～札幌ドームの未来～

当社の使命は、まずは札幌ドーム条例の設置目的である「スポーツの普及振興及び市民文化の向上並びに地域活性化に寄与する」を達成することであり、安定的なドーム運営と広く公共性を保つことである。そして同時に「安全、安心、快適」を常に追求しながら適切な施設維持管理を行っていくことであるが、開業から13年を経て、より一層の安全面での管理が重要となってきている。施設所有者である札幌市策定の「札幌ドーム保全計画」と連動した適切かつ効率的なメンテナンスを推進するとともに、ホスピタリティ面と安全面の両面の向上を目的とした施設改良にも引き続き取り組んでいく必要がある。また、自然災害やテロ対策など幅広いリスクを想定して、危機管理や防災訓練の拡充などリスクマネジメント体制の強化にも注力している。さらには、公共の大規模施設として環境対策にも配慮し、エネルギー消費削減や廃棄物削減、リサイクル推進などの取組みも継続していきながら、札幌ドームの敷地内における緑豊かで良好な自然環境の維持にも努めていくものである。

当然のことながら、適切な施設維持管理においては収益確保が前提となるため、株式会社としてより一層の経営努力を積み重ねていくことが重要な課題となる。これまで、開業以来12期連続で黒字経営を続けてきているが、この間、その利

益の中から将来にわたる良好な施設設備を維持するための当社応分の費用負担に備え「施設保全設備更新積立金」を計上してきている。今後、修繕やメンテナンスに要するコストの増加が見込まれる中でも、各種の安全・サービスレベルを落とすことなく、かかるコストを吸収していくためには、一層の稼働率向上と来場者数増加を図り、増収を目指すとともにコストを見直し、健全な経営体質を継続していくことが必要となる。そして、生み出した利益を札幌ドームの利用者である市民道民をはじめとするお客さまに還元していくことと、将来の保全などのために蓄積していくことの双方のバランスを保ちながら、経営活動を行うことが重要となる。そのため、長期的な展望の下、計画的な修繕・更新について、施設所有者である札幌市と連携を図りながら、指定管理者として担う役割を適宜適切に果たしていくことが課題であると考えている。

平成25年1月には開業以来累計の来場者数が3,000万人を超えたが、末永く親しまれ利用されながら、今後も多くのイベントが開催され、また、多くの来場者を迎えるに当たり「安全・安心・快適」な札幌ドームであり続けるため、当社の掲げる経営理念を全社員および札幌ドームで働くすべての関係者とともに常に念頭に置き、高品質なサービスの提供と適切な施設管理を永続的に進めていく所存である。

■株式会社札幌ドーム 経営理念  
「私たちはエンターテインメントビジネスを通して、常に最高のホスピタリティを追求し、すべてのお客さまの夢と感動を実現するステージを創造します」

2015 2016  
11~1月

# SCHEDULE

## 代々木第一体育館

コンサート	ラブセンpresents V6 LIVE TOUR 2015 -SINCE1995~FOREVER- (11/1)
太極拳	2015太極拳全国交流大会 (11/3)
コンサート	CNBLUE 2015 ARENA TOUR ~Be a Supernova~ (11/5,6)
体操	2015日本体操祭 (11/7,8)
ヘアショー	第12回フューチャーズロード「デザインパワー」2015(11/10)
コンサート	ゴールデンボンバー全国ツアー2015「歌広、金爆やめるってよ」 (11/12,13)
空手	第9回JKJO全日本ジュニア空手道選手権大会 (11/14,15)
コンサート	LAWSON presents YUZU ARENA TOUR 2015-2016(11/17,18)
コンサート	tv asahi DREAM FESTIVAL 5th Anniversary 2015(11/21-23)
コンサート	Sam Smith "In The Lonely Hour Japan Tour" (11/24)
体操	第69回全日本体操競技団体選手権大会 (11/28,29)
コンサート	namie amuro LIVEGENIC 2015-2016 (12/2,3)
コンサート	湘南乃風 風伝説 第二章 ~雑巾野郎 ボロボロ一番星TOUR2015~ (12/5,6)
コンサート	namie amuro LIVEGENIC 2015-2016 (12/8,9,11)
チャリディング	第27回 全日本学生選手権大会 (12/12,13)
コンサート	namie amuro LIVEGENIC 2015-2016 (12/15,16)
チャリディング	第26回 全日本高等学校選手権大会/ 第2回 全日本中学校選手権大会 (12/19,20)
コンサート	超特急 CHRISTMAS ONEMAN LIVE 2015 Fantasy Love Train ~君の元までつながるRail~ (12/23,24)
コンサート	ayumi hamasaki COUNTDOWN LIVE 2015-2016 A(仮) (12/29-31)
卒業制作展	未来創造展2016 (1/20)
コンサート	ニッポン放送 LIVE EXPO TOKYO 2016 ミュージック+プレゼンツ アニメ紅白歌合戦 Vol.5(1/31)

## 味の素フィールド西が丘

サッカー	2015プレナスなでしこリーグ2部 第27節 スフィーダ世田谷FC vs FC吉備国際大学Charme (11/3)
サッカー	平成27年度第94回全国高等学校サッカー選手権大会 東京都大会 準決勝 (Aブロック) (11/7) 準決勝 (Bブロック) (11/8) 決勝 (A、Bブロック) (11/14)
サッカー	JR東日本カップ2015第89回関東大学サッカーリーグ戦 (後期) 法政大学 vs 早稲田大学 (11/15) 国士舘大学 vs 流通経済大学 (11/15)
サッカー	平成27年度第64回全日本大学サッカー選手権大会 準々決勝 (12/13)
サッカー	第37回皇后杯全日本女子サッカー選手権大会 準々決勝 (12/19)
サッカー	高宮杯U-15第27回全日本ユースサッカー選手権大会 準決勝 (12/26) 決勝 (12/28)
サッカー	平成27年度第94回全国高等学校サッカー選手権大会 1回戦 (12/31) 2回戦 (1/2)

スケジュールは変更になる場合がありますので、ウェブサイト等で必ずご確認ください。 <http://www.jpnsport.go.jp>

国立代々木競技場 (☎ 03-3468-1171) 秩父宮ラグビー場 (☎ 03-3401-3881)  
味の素フィールド西が丘 (国立スポーツ科学センター) (☎ 03-5963-0203)

### 【編集後記】

たまには東京都北区西が丘にある国立スポーツ科学センター (JISS) のお話を少し。JISSはスポーツ医・科学の専門的な立場から日本スポーツの国際競技力向上を支援する機関で、JISSの7階にある栄養指導食堂 (レストランR<sup>3</sup>) では選手の食事提供から栄養サポートも行っていきます。そこで見た某競技の女性アスリートたち。すごい食欲! スラッと細い体で食べること、食べること! それだけ練習が厳しいのでしょうか。そうやって世界と戦う心と体を養っているのでしょうか。そんなひたむきな選手たちをJISSは支え、舞台裏から応援しています。(K)

## 代々木第二体育館

バスケット	関東大学バスケットボールリーグ 入替戦 (11/4-6)
格闘技	K-1 WORLD GP 2015 (11/21)
バスケット	全日本大学バスケットボール選手権大会 (11/23-29)
バドミントン	全日本総合バドミントン選手権大会 (12/1-6)
バスケット	Wリーグ2015-2016 (12/11)
バスケット	NBL 2015-2016 (12/12,13)
コンサート	vistlip (12/18)
レスリング	天皇杯全日本レスリング選手権大会 (12/21-23)
バスケット	NBL 2015-2016 (12/25,26)
コンサート	ナイトメア (12/30)
コンサート	Over The Edge '15 (12/31)
ダンス	Winter Cup 2016 (1/8,9)
バスケット	NBL 2015-2016 (1/20,23,24,28)

## 秩父宮ラグビー場

ラグビー	日本代表戦 リオデジャネイロオリンピック2016 7人制ラグビー アジア予選 (女子) (11/28-29)
ラグビー	ジャパンラグビートップリーグ2015-2016 【リーグ戦】 パナソニック vs サントリー (11/13) リコー vs NTTコム/東芝vsクボタ (11/14) NTTコム vs サントリー/東芝vsパナソニック (12/12) NEC vs コカ・コーラ/NTTコム vs Honda (12/19) キヤノン vs ヤマハ/サントリーvs東芝 (12/26) 【順位決定トーナメント】 1回戦 (1/9) 2回戦 (1/16) 3回戦 ファイナル・3位決定戦 (1/24)
ラグビー	ジャパンラグビートップイーストリーグ 三菱重工相模原 vs 釜石SWRFC (12/5)
ラグビー	関東大学対抗戦・関東大学リーグ戦 慶應義塾大学 vs 明治大学/帝京大学 vs 早稲田大学 (11/1) 拓殖大学 vs 中央大学/大東文化大学 vs 東海大学 (11/7) 明治大学 vs 帝京大学 (11/15) 大東文化大学 vs 法政大学/流通経済大学 vs 東海大学 (11/22) 早稲田大学 vs 慶應義塾大学 (11/23) 早稲田大学 vs 明治大学 (12/6)
ラグビー	第52回全国大学ラグビーフットボール選手権大会 セカンドステージ (12/13,20,27) ファイナルステージ準決勝 (1/2) ファイナルステージ決勝 (1/10)
ラグビー	第53回日本ラグビーフットボール選手権大会 (1/31)
ラグビー	その他 第95回全国高校ラグビーフットボール選手権 東京都予選 決勝 (11/8) 第25回東日本クラブ選手権大会 決勝 (11/15) 第37回関東大学ジュニア選手権決勝 (12/5) 第34回東日本中学校ラグビーフットボール大会 決勝/3位決定戦 (12/23)

## 国立競技場 第607号

2015年11月1日発行

●編集・発行

独立行政法人日本スポーツ振興センター 広報室

〒107-0061 東京都港区北青山2-8-35

tel 03-5410-9121

●編集協力 株式会社ジャニス

リサイクル適性  
この印刷物は、印刷用の紙へリサイクルできます。